

J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

J-BINGO in AGU:
Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

<プロジェクト・メンバー>

飯島 泰裕^{†1} 米山 明日香^{†1} 菊川 人吾^{†1,2} 上野 亮^{†1}

Iijima, Yasuhiro^{†1} Yoneyama, Asuka^{†1} Kikukawa, Jingo^{†1,2} Ueno, Ryo^{†1}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 内閣官房（副長官補室）・デジタル庁 内閣参事官

^{†2} Counsellor, Cabinet Secretariat・Digital Agency

キーワード：国際公務員，国際機関，キャリアプラン

Keywords: International civil servant, International organization, Career plans

1. プロジェクトの実施背景と 目的

将来的に、国際機関を含む、国際的なフィールドで働く日本人職員を増やすことが、日本全体としても喫緊の課題となっている。そのため、青山学院大学社会情報学部においても、学生時代から国際的なフィールドで働く日本人職員との接触機会、国際機関などでのインターンシップの機会等を設けることで、国際機関職員候補を始めとした、国際的なフィールドで、活躍できる人材の育成が必要である。

こうした背景も有り、2015年度より、学生の国際機関等に対する興味や関心を高めるため、関係機関の協力を得ながら、講演会等を実施している（飯島他、2016）。これは、学生達に対し、国際機関を含む、国際的なフィールドも、将来の就職先の一つとして、意識させることを通じ、最終的には、国際的に活

躍する、日本人を増やすことを目的としている。加えて、2016年度からは「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、2017年度からは「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」、2018年度からは「特定課題演習」と年次進行により、各学年の演習科目で、選択テーマの1つとして扱うことにより、自分のキャリアを考えると共に、より深く、国際的なフィールドで働く、日本人と関われる機会を創出してきた（飯島他、2017～2019）。

こうして、2018年度より各学年の学生が、何らかの形で本プロジェクトに関われる環境を構築してきた。しかし、2020年度はコロナ禍により、例年とは異なり、オンライン上の活動を中心に進めざる負えなくなった（飯島他、2020）。2020年度より、制限は少なくなったが、コロナ禍の影響は継続している。そのため、今年度は対面とオンラインを使い分けながら、活動を進めてきた。本稿では、そうした状況下で実施してきた、国際的に活躍する、日本人を増やすことを目的とした、プロジェクトの進捗状況、今後の実

施方針等について報告する。

2. 授業を通じた国際的なフィールドで活躍できる人材育成の取り組み

今年度は学部1～4年生の全学年を対象に活動してきた。1年生には、国際機関の存在を意識させるため、「Integrated English II」の時間を利用し、講演会を実施した。2年生は「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」の選択テーマとして、国際機関等でのインターンの実現に向け、国際的に働くことを理解するため、調査活動に取り組んでいる。3年生は「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」の選択テーマとして、2年生時の活動成果を活かし、国際機関等でのインターンの実現を目指し、活動をしてきた。そして、4年生は「特定課題演習」の選択テーマとして、これまでの活動の集大成として、オンラインイベントの実施等の活動を行ってきた。

これらの各科目での活動に加え、月2回程度、J-BINGO プロジェクトに関係する、2～4年生が集まるゼミを開催してきた。ゼミでは、お互いの調査等の進捗状況を共有すると共に、先輩から後輩に対し、調査活動等に必要ノウハウの伝達を図ってきた。本章では、各学年における、具体的な取り組み内容を記す。

2-1. Integrated English IIにおける取り組み状況

1年生を対象とした活動としては、後期実施科目である「Integrated English II」の時間を利用して、オンライン講演会を2回実施した。対象としたのは、英語の得意な学生が集まるクラス及び、その他の参加希望者とした。講演日時や講師等は表1、講演の様子は図1の通りである。なお、今年度は90分の講義時間に、2人の講師からご講演頂く形となった。また、第2回の講演会では、オンライン講演会であることを活かし、実際に現在、ジュネーブで働いている国際機関職員の方々に、ご講演頂いた。海外と繋いで、講演会を行うのは、初の試みでもある。

表1 2021年度の講演内容

回数 (実施日)	講師／講師の所属 役職 講演タイトル
第1回 (2021/10/4)	講師： 菊川人吾／青山学院大学 社会情報学部 客員教授 講演タイトル： 国際機関への人的貢献拡大に向けて
	講師： 松島悠史／外務省 国際機関人事センター 課長補佐 講演タイトル： 国際機関と日本 日本人が国際機関で働くということ
第2回 (2021/11/8)	講師： 早藤昌浩／WTO（世界貿易機関） 貿易政策検討部 参事官 講演タイトル： 国際機関で働く意義
	講師： 小泉純子／ITU（国際電気通信 連合）スイス・ジュネーブ本部 無線通信局 シニア無線エンジニア 講演タイトル： 国際機関で働く ～国際電気通信連合（ITU）～

(敬称略)



(注：編集により学生の氏名等は塗りつぶしを行った)

図1 講演会の様子

また、授業を通じて、講演会に参加した学生を対象に、今後のJ-BINGOプロジェクトの取り組みに対する、参加意欲等を調べるため、2021年11月12日～11月19日の8日間に、オンライン形式でのアン

ケート調査を実施した。結果、37名からの有効回答を得られた。

まず、授業をきっかけに在学中に、国際機関でインターンをしたと思った学生は16名(43.2%)に留まった。また、国際機関や国際的なフィールドで働いてみたいと思った学生も13名(35.1%)に留まった(図2参照)。入学前から、インターンをしたい、国際的なフィールドで働いてみたいと考えている学生も一定数はいるため、全体としては、どちらも50%を超えている状態である。しかし、授業きっかけという観点からは、思ったよりも、学生の興味関心を引き出せなかった。

これは2020年度から続く、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が考えられる。また、今年度は担当者の体調不良により、前期科目である「Integrated English I」において、J-BINGOプロジェクトに関連した取り組みを実施できなかった。次年度以降に関しては、従来のように、4月からの1年間を掛けて、授業や講演会を通じ、J-BINGOプロジェクトに関する説明や魅力を伝えていくことで、学生の国際機関や国際的なフィールドでの仕事に対する、興味関心を引き出せると考える。

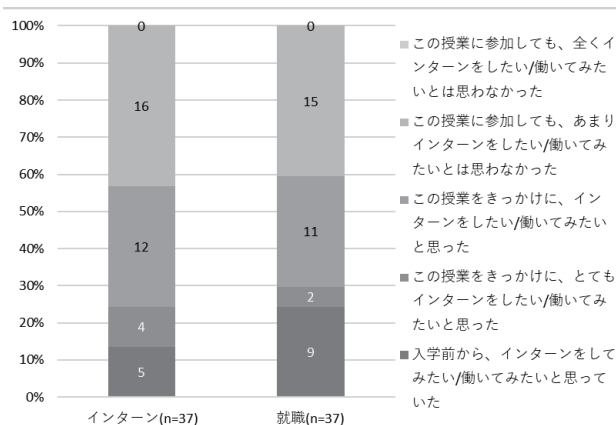


図2 国際機関でのインターン、国際機関や国際的なフィールドへの就職に対する考え

2・3年生科目における、J-BINGOプロジェクトに関する取り組みへの参加意欲としては、2年生科目では26名(70.3%)、3年生科目では21名(56.8%)と、どちらも過半数を超える学生が参加意向を示している(図3参照)。第1回講演会において、菊川客員教授より、本プロジェクトの意義、これまでの活動成

果を紹介した効果もあり、多くの学生に対し、進級後、J-BINGOプロジェクトに関する取り組みに参加してみたいと思わせられた。よって、次年度も、第1回の講演会で本プロジェクトに関して、学生に説明するという形式は続けていきたい。

なお、3年生科目は、次年度より、J-BINGOの活動を行う科目が、従来の演習科目である「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」から、英語科目である「English for the School of Social Informatics (ESSI)」へと変更される。それに伴い、カリキュラムの内容も、今年度までの内容とは、変更部分が出てくる予定である。そのため、学生から見ると、英語科目としての3年生科目を履修した先輩は存在せず、未知の科目となる。その影響も有り、2年生科目と比べると、3年生科目の参加意欲が低くなっている。したがって、3年生科目の内容が確定している次年度は、その魅力をより伝えることで、参加意欲も高めていく必要がある。

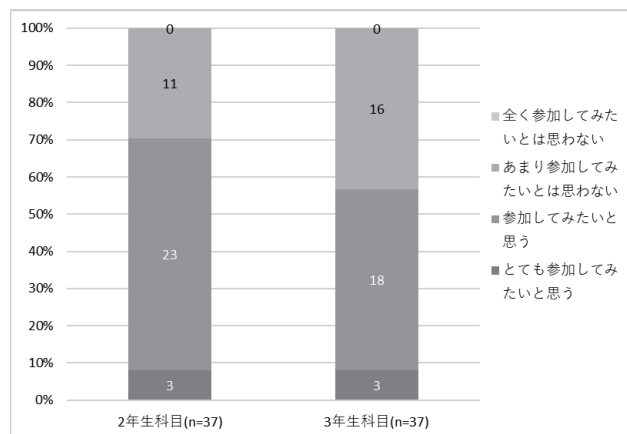


図3 2・3年生科目における、J-BINGOプロジェクトに関する取り組みへの参加意欲

2-2. プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱにおける取り組み状況

2年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部2年生以上が対象の前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」において、J-BINGOプロジェクトを選択テーマの1つにした。今年度は対面授業の形式で実施できたため、例年通り、ここでは国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動に取り組んできた。

具体的には教員のサポートを得つつ、自らが京国際機関やNPOなどへアプローチし、様々なヒアリング調査を実施した。その後、それらの成果を活かし、インターンや共同作業等を実践するためのプロジェクト素案を作成することが、最終目標である。

今年度は、前期は33名6グループ、後期は24名4グループの学生がJ-BINGOテーマを選択し、J-BINGOプロジェクトのメンバーとして活動している。なお、今年度は後期に履修しなかった学生がおり、履修者数が減ったため、前期から後期にかけて、一部グループの再編を行った。

更に今年度は、あるグループの学生たちが中心となり、対面でのワークショップを開催した。ワークショップは「刺繍×プログラミングやってみませんか?」と題し、青山学院大学相模原キャンパスに通学する学生を対象に、2021年12月9日(木)の11時～14時までの時間、N213教室を利用して、実施した。ワークショップではScratchの刺繍データ作成拡張機能を使い、古着を再利用したティッシュケースに、ミシンで刺繍を行う(図4、図5参照)。その待ち時間に、ファッション産業の労働問題、環境問題を考えるという内容になっている。一回の所要時間としては、15分程度に設定した。最終的には17名の参加があり、ワークショップは盛況の内に終了した。

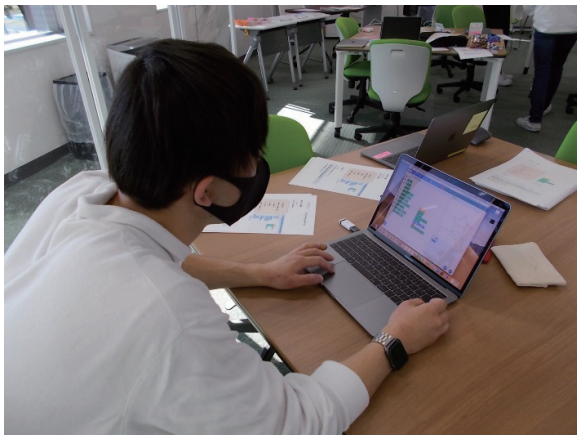


図4 刺繍する絵柄のプログラミングをしている様子

ファイナルプレゼンテーションは、オンラインゼミの中で行った(詳しくは2-5参照)。そこでは、各グループ、従来通りの相手先へ訪問する形、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの調査といった、様々な



図5 プログラミングされた内容を刺繍してる様子

形で行われたヒアリング調査の内容を踏まえた提案を行った。特に、国際労働機関(ILO)駐日事務所といった国際機関は、コロナ禍の中でも、対面でのヒアリング調査に応じて頂いた。

今年度は、コロナ禍の影響もあり、ヒアリング調査の方法が対面とオンライン、どちらも活用する形となった。次年度も、この状況は続くと思われ、今後どちらの方法でも対応できるように、指導を続けていくことが必要となる。また、新たな試みとして、対面でのワークショップを開催したが、これはJ-BINGOプロジェクトメンバー以外の学生も巻き込んで、国際問題を考える良い機会になった。こうした、色々な人を巻き込む取り組みに関しても、継続していくことが望ましい。

2-3. プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱにおける 取り組み状況

3年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部3年生以上が対象の前期科目「プロジェクト演習Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習Ⅱ」において、J-BINGOプロジェクトを選択テーマの1つにした。授業自体は、コロナ禍の影響もあり、昨年度に続き、オンライン授業となった。しかし、オンラインでも可能なインターン活動等も出てきたこと、インターン先の対象を在京国際機関や関連機関に限らず、NPOやグローバル企業等も含めることで、実施事項は、例年通り、インターンや共同作業などを通じた、人的国際貢献とした。

具体的には、教員のサポートを得つつ、自らが京国

際機関などへアプローチし、インターンや共同作業を実践するのに合わせ、文献調査などを通じて、国際的課題の把握や解決策の提示を研究している。更に、国際機関等でのインターン実現に必要な英語力（英語履歴書の作成など）の習得も目指し、活動を続けている。

今年度は、前期は3名、後期は2名の学生がJ-BINGO テーマを選択し、J-BINGO プロジェクトのメンバーとして活動している。前期から後期にかけて、1名減っているのは、1名の学生が協定校留学により、休学中のためである。当該学生は、オンラインゼミ（詳しくは2-5 参照）には、留学後も参加をしており、復学時にはJ-BINGO プロジェクトのメンバーとして、活動を再開する予定である。

今夏には協定校留学中の1名を除く、2名の学生が、それぞれNPOにて、オンラインを中心とした、インターンを実施した。どちらのNPOも、特定の国を対象に活動している団体である。そのため、インターンの内容はNPOが対象としている国との関りが深い内容だったが、活動を通じ、国際的課題やその解決に必要なことについて、一定の示唆を得られたようである。協定校留学中の1名は、復学に向けて、留学先にて、本プロジェクトの趣旨に沿ったインターン等を見つけ、取り組む計画となっている。

3名の学生は、次年度の特定課題演習でも、J-BINGO プロジェクトを選択テーマとする予定である。それぞれ、これまでの活動成果を活かし、コロナ禍によるオンライン化にも対応したJ-BINGO プロジェクトのテキスト作成、オンラインイベントの開催、フェアトレード商品の販売等の活動を計画している。

2-4. 特定課題演習における 取り組み状況

4年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部4年生を対象とした演習である「特定課題演習」において、J-BINGO プロジェクトを選択テーマの1つとした。結果、2020年度は、2年生時からJ-BINGO テーマを選択している1名の学生が、4年生時でもJ-BINGO を選択した。

具体的な活動内容としては、1) J-BINGO プロジェクトのWebサイトの管理運用、2) 国際機関や国際問題に関する情報発信を行うInstagramの管理運用、

3) オンラインワークショップの開催の3点に取り組んだ。また、2020年度にコロナ禍の影響を受け、国際機関でのインターンが実施できなかったため、夏季休暇期間中でのインターンの実現に向けても、チャレンジした。しかし、その時点では残念ながら、コロナ禍の影響が続いており、国際機関でのインターンの募集自体も少なくなった関係もあり、インターンは実現できなかった。

一方、1) J-BINGO プロジェクトのWebサイトの管理運用に関しては、2019年度の卒業生が作成した、公式サイト（<http://www.cc.aoyama.ac.jp/users/j-bingo/jbingo.html>）の活動記録の更新を行っている（青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト、2019）。加えて、クイズコンテンツの実装を予定している。

2) 国際機関や国際問題に関する情報発信を行うInstagramの管理運用に関しては、世界の記念日等に関する投稿、国際機関の歴史や活動内容、日本との関わりに関する投稿を行っている（図6参照）。こうした情報発信は、一般的には、あまり身近な存在ではない国際機関のことを気軽に知れる機会の創出を目的としている。

3) オンラインワークショップの開催に関しては、「J-BINGO 主催オンラインワークショップ ～国際機関の予算を決めてみよう～」と題して、青山学院大学の学生を対象に、2021年12月15日（水）の19時～21時までの時間、Webexを利用して、オンラ



（青山学院大学社会情報学部 J-BINGO プロジェクト、2021より引用）

図6 J-BINGO プロジェクト 公式 Instagram

イン形式で実施した。ワークショップは、グループワークを通じ、「〇〇を目指す世界」というコンセプトを決め、目指すべき世界に向けて、実際に国際機関の予算配分を考え、発表する。その後、当日の講師としてご参加頂いた、国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促進事務所の村上次長より、コメントをもらうという内容になっている。実際のオンラインワークショップの様子は図7、図8の通りである。しかし、残念ながら、当日の参加者としては4名に留まった。

イベント開催に際し、学内への看板の設置や相模原キャンパスに通う学生を対象とした、学生ポータルによる情報発信、関係者による口コミ等により、集客を図った。しかし、思ったように参加者を集められなかった。イベントの開催時期、告知がイベント直前になった影響等も有ると思うが、相模原キャンパスで、国際機関に関するイベントを実施した際の集客の難しさが浮き彫りとなった。次年度以降に開催する際は、相模原キャンパスだけでなく、青山キャンパス、高等部や中等部も対象に参加者を募り、より多くの人が参加してくれるイベントとしたい。



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図7 オンラインワークショップの様子1



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図8 オンラインワークショップの様子2

2-5. J-BINGO オンラインゼミの実施

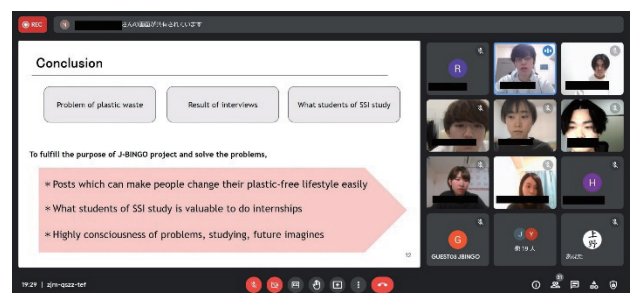
それぞれの授業での取り組みと並行して、毎月2回程度、「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」、「特定課題演習」において、J-BINGO テーマを選択した学生が集まる、J-BINGO オンラインゼミを開催している。学生たちは、オンラインゼミ時に調査の進捗状況、インターンの活動内容等を報告することで、随時、他学年のメンバーや教員からのフィードバックを受けながら、活動を進めてきた。各授業時とは異なり、他学年の報告を聞くことは、お互いにとっての刺激になったと考えられる。

こうしたゼミは、コロナ禍以前には対面形式で実施してきた。しかし、大人数の学生が集まり議論をすること、放課後（5限の後、授業時間帯としては6限）に実施していること、J-BINGO と関連する科目の内「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」はオンライン授業である等の要因もあり、対面での実施は難しいと判断し、今年度もオンライン形式で開催することとした。実際のオンラインゼミの様子は図9、図10の通りである。



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図9 オンラインゼミの様子1



(注：編集により学生の氏名は塗りつぶしを行った)

図10 オンラインゼミの様子2

今年度は、後期から学生の一人が協定校留学のため、渡米しているが、オンラインゼミには、何回か参加をしてくれた。時差の問題もあるが、留学中の学生でも参加できるのは、オンラインで実施している強みである。来年度も留学予定の学生がいる。そのため、対面形式での実施が可能になった場合でも、オンライン形式と使い分けることが、望ましい。

3. 今後の実施方針

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、J-BINGO プロジェクトに関連する授業内でも、対面授業とオンライン授業の形式が、入り混じる状況となった。そのため、必要や状況に応じ、対面とオンラインを使い分け、活動を進めていく形となった。

Integrated English の取り組みに関しては、後期に2回、オンライン形式の講演会を実施した。講演会の内、1回はオンライン形式である利点を活かし、ジュネーブで働く、国際機関職員の方からご講演頂いた。また、今後のJ-BINGO プロジェクトに関する、取り組みへの参加意欲等を把握するため、アンケート調査を実施した。一方、今年度は国際機関でのインターン、国際機関や国際機関や国際的なフィールドへの就職に対して、学生への関心が例年よりも、引き出せなかった。そこで、次年度の講演会は、J-BINGO プロジェクトに関する説明だけに留まらず、OB/OG から、J-BINGO での経験が、どのように就活や社会人生活に役立っているか、話してもらうことも検討したい。

プロジェクト演習入門では、従来通り、国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動に取り組んできた。しかし、これまでとは異なり、オンラインによるヒアリング調査の実施も行われた。また、調査対象を国際機関に限定しなかったため、NPO や財団法人を調査する学生もいた。学生達が色々な人の手を借りながら、イベントを開催し、一定の成果を得たのも、従来からの変化と言える。

プロジェクト演習では、国際機関だけでなく、NPO 等も視野に入れて、インターン実現に向けた活動を行った。結果として、2名の学生が、特定の国を

対象に活動している NPO でのインターンを勝ち取った。過去の所属学生は、基本、国際機関でのインターンを行ってきたため、NPO でのインターンは、新しい活動内容となった。特定の国の問題に着目することを通じ、国際問題等への理解を深め、その解決に向けた方法、社会情報学部生として可能なことを考えるのは、J-BINGO プロジェクトとしては、新しい学習の仕方とも考えらえる。今後は、プロジェクト演習Ⅱの最終報告会の結果を踏まえ、一年間の調査活動に関して、報告書を作成してもらう予定である。

特定課題演習では、Web サイトや Instagram による情報発信に加え、オンラインイベントの開催を行った。これまで、J-BINGO プロジェクトとしても、イベントの開催は検討してきたが、コロナ禍の影響等もあり、実現ができなかった。しかし、今年度は演習の一環として、イベントの開催にチャレンジした。なかなか思い通りにいかない点も、多々あったが、実際に開催してみたことで、様々な気づきが得られたと思う。今後は特定課題演習の最終報告会で、一年間の活動成果を報告してもらう予定である。

2020 年度はコロナ禍の中でも、J-BINGO プロジェクトとしての活動を進めることに主眼が置かれており、新しい取り組みに挑戦することは難しかった。これに対し、今年度はコロナ禍の中でも、Web 会議室のツール等を活用し、様々な新しい取り組みができた。次年度以降は、これらの取り組みをより発展させていきたい。また、調査研究の面では、国際的な活動をする機関へのヒアリング調査、もしくは関係機関を集めた研究会の実施がしたい。加えて、国際機関への就職支援に強い大学との連携の模索等を経て、将来的には、本学が関係機関の結節点になれるような、活動を進めたい。

謝辞

講演会にてご講演頂きました講師の皆様方に、感謝の意を表します。また、ワークショップ「刺繍×プログラミングやってみませんか？」の開催に当たりご協力頂いた、青山学院大学社会情報学部の吉田葵先生、ファイナルプレゼンテーションの審査員、オンラインワークショップ「国際機関の予算を決めてみよう！」の実施等、本プロジェクトの活動全般にご協力頂きました、国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促

進事務所（UNIDO 東京事務所）の村上秀樹次長に、
感謝の意を表します。

なお、本研究は社会情報学研究センターによる研

究プロジェクト「J-BINGO in AGU: Japan Bridge
for International Governmental Organization in
AGU」の成果の一部です。

参考文献

- [1] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト」, 2019 年, <http://www.cc.aoyama.ac.jp/~j-bingo/jbingo.html>, Accessed.2021.12.16.
- [2] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト 公式 Instagram」, <https://www.instagram.com/j.bingoinsta2021/>, 2021 年, Accessed.2021.12.23.
- [3] 飯島泰裕、米山明日香、菊川人吾、上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO at AGU」『青山社会情報研究』第 8 巻, 2016 年, 75-78 ページ.
- [4] 飯島泰裕、米山明日香、菊川人吾、上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 9 巻, 2017 年, 63-67 ページ.
- [5] 飯島泰裕、米山明日香、菊川人吾、上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 10 巻, 2018 年, 78-83 ページ.
- [6] 飯島泰裕、米山明日香、菊川人吾、上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 11 巻, 2019 年, 58-65 ページ.
- [7] 飯島泰裕、米山明日香、菊川人吾、上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 12 巻, 2020 年, 86-92 ページ.